

製品名: PIG-F ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab16134**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	IHC, ICC/IF, ELISA
反応性	ヒト、マウス
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率 IHC 1:100-1:300, ICC/IF 1:50-1:200, ELISA 1:20000-1:40000

分子量

抗原情報

遺伝子名	PIGF
別名	PIGF; Phosphatidylinositol-glycan biosynthesis class F protein; PIG-F; GPI11 homolog
遺伝子 ID	5281.0
SwissProt ID	Q07326
免疫原	PIG-F 由来の合成ペプチド。アミノ酸範囲: 130-210

背景

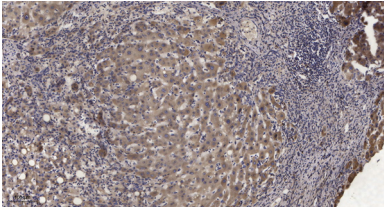
この遺伝子は、グリコシルホスファチジルイノシトール (GPI) アンカー生合成に関与するタンパク質をコードしています。GPI アンカーは、コア骨格に3つのマンノース分子を含む糖脂質で、多くの血液細胞に存在し、タンパク質を細胞表面に固定する役割を果た

しています。コードされているタンパク質と、別の GPI 合成タンパク質である PIGO は、エタノールアミンリン酸を GPI の 3 番目のマンノースに転移する働きをします。異なるアイソフォームをコードする選択的スプライシング転写バリエーションが報告されています。[RefSeq 提供、2008 年 7 月],機能: エタノールアミンリン酸を GPI の 3 番目のマンノースに転移することにより、GPI アンカー生成に関与します。経路: 糖脂質合成、グリコシルホスファチジルイノシトールアンカー生成。類似性: PIGF ファミリーに属します。サブユニット: PIGG および PIGO と複合体を形成します。PIGF は PIGG と PIGO を安定化するために必要です。

研究分野

グリコシルホスファチジルイノシトール (GPI) アンカー生成;

画像データ



パラフィン包埋ヒト肝癌の免疫組織化学分析。1、抗体を 1:200 に希釈した (4°C で一晩)。2、抗原賦活化には Tris-EDTA、pH9.0 を使用した。3、二次抗体を 1:200 に希釈した (室温、45 分)。